

理事長・学長インタビュー

学生ファーストを掲げ 「選ばれる」大学づくりを

北翔大学 創立60周年 ホームカミングデー

2020年卒業式を実施しました!!

キャリア支援センター | 職員 × 学生対談

学生一人ひとりの就職活動を全力でサポート。

教職センター

教職に強い北翔、その理由を解説します!

北翔60年の歩み
学部・学科ニュース
教室リニューアル
地域連携センター
年間ダイジェスト

教員対談

感性を磨き実践力を養う
芸術学科ならではの強み

from April 2024 to March 2025 for the Future



村松教授



林教授

教員対談

感性を磨き実践力を養う 芸術学科ならではの強み

多様な学びや経験を通し、豊かな感性を育てる芸術学科。
その強みや特徴を教員が語り合いました。

教育文化学部 芸術学科
学科長・教授

村松 幹男

教育文化学部 芸術学科 教授
北方圏学術情報センター長

林 亨

他にはない魅力的な学び

村松 本学の芸術学科の特徴は美術・メディアデザイン・インテリア建築・服飾美術・舞台芸術の5分野を深く、広く学べることにあります。学生が多様な刺激を受け、新たな発想を生み出せるように、分野間の協働にも取り組んできました。

林 そうですね。複数の分野があり、協働することによって、それまで知らなかったことや想像してもいなかったことに出会い、世界が広がる。そういう可能性に満ちた学科だと思っています。

村松 そこが芸術学科の魅力だと思っています。舞台芸術や服飾美術を有する芸術系学科は全国的にも珍しく、北海道では唯一です。また、江別キャンパスの他に札幌円山キャンパス／北方圏学術情報センターという、実践的な活動の場があることも大きな強みです。林 札幌円山キャンパスには、本格的な舞台装置を備えたホールと2つのギャラリーがあり、演劇やファッションショーなど、学生の学びと研究を結び付けたイベントを定期的に開催しています。

村松 舞台芸術分野では年間最低8本の公演をしています。2年目で行う西洋古典では服飾美術分野の学生が衣裳を担当します。また、学外発表会ファッションショーは他分野の学生も協力して実施します。

林 美術分野やメディアデザイン分野の展覧会や4年間の集大成となる卒業制作展など、先ほと言った分野間の協働を肌で知る機会が多いですね。

村松 そう思います。本学科では実践を重視し、外部のイベントにも積極的に参加しています。例えばインテリア建築分野では、札幌の地下歩行空間で行われるeNOMapsにも毎年参加しています。

林 北方圏学術情報センターは教員の研究組織として、研究会の主催や市民講座などを

行っています。地域と連携したイベントも多く、2024年10月には、「第11回いっしょにね！文化祭」を実行委員会とともに開催し、参加者が900名を超えました。今年度受賞した大学機関別認証評価において「北方圏学術情報センターにおける研究推進と地域貢献」が非常に高い評価を受けたのですが、学生の学びと研究を結び付けた活動や地域に向けた取り組み、札幌の中心部にあることなどが評価されたのだと考えています。

村松 ありがたいですね。これからも研究施設ではありますが、開かれた場として地域貢献を果たしていることを、もっと伝えていきたいですね。

才能を生かし活躍する人に

村松 本学の起源である北海道女子短期大学は被服科から始まり、続いて工芸美術科が開設されました。本学科はそのDNAと自立した社会人を育てるという建学の精神を引き継ぎ、学生の自主性を尊重し、やりたいことに取り組める環境を整えています。目指すのは、専門性を生かして活躍できる学生の育成です。

林 私は教職担当として、教員をしながら芸術活動が続けるという選択ができることも、大切な要素だと考えています。

村松 そうですね。そうした多様な選択が可能で、学生が夢をかなえるためのサポートを私たち教員も惜しみません。

林 芸術を学んだからこそ、豊かな人生を送ることができるような教育を続けていきたいですね。今後は次を担う若い先生たちが本学科を牽引し、ステップアップしていくことを期待しています。

村松 同感です。本学科は、芸術の世界で才能を発揮するための充実した学びや経験ができると思自負しています。面白いもの、刺激的なものを生み出す力のあるクリエイターを育て続けていこうと思っています。

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、経済的理由により就学の継続が困難な学生への支援や、良質な教育環境の維持のため、寄付金を募集しています。ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】 2029年5月まで(常時受付いたします)
【お問い合わせ】 総務部総務課まで
詳細は本学ホームページをご覧ください。
<https://www.hokusho-u.ac.jp/>

ふるさと納税による本学支援

江別市ではふるさと納税を活用した高等学校・大学支援を導入しており、応援先として本学を指定し寄付を行うことができます。納めていただいた寄付金額から返礼品の経費と江別市の事務経費を差し引いた金額(寄付金額の3割程度)が、本学へ教育環境の充実のための補助金として交付されます。なお、江別市にお住まいの方は、返礼品を受け取ることはできませんのでご了承ください。詳細は江別市企画政策部企画課サイトをご覧ください。

【江別市企画政策部企画課サイト】
<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/kikaku/105841.html>

御礼申し上げます

多くの皆様からご支援を賜りました。また、江別市ふるさと納税においてもご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

年間行事予定 2025年4月～2026年3月

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 入学式 |
| 5月 | オープンキャンパス |
| 6月 | オープンキャンパス |
| 7月 | オープンキャンパス |
| 8月 | 編入学試験(第1期)／オープンキャンパス |
| 9月 | 創立記念日／前学期学位記授与式／大学祭／保護者懇談会／オープンキャンパス |
| 10月 | 大学院入学試験(第1期) |
| 11月 | 学校推薦型選抜・特別選抜試験
編入学試験(第2期) |
| 12月 | オープンキャンパス |
| 1月 | 大学入学共通テスト |
| 2月 | 一般選抜(A日程)／編入学試験(第3期)
大学院入学試験(第2期)／大学見学会 |
| 3月 | 学位記授与式／一般選抜(B日程)
編入学試験(第4期)／オープンキャンパス |



学校法人北翔大学 小柴 寛芳 前理事長逝去

法人経営・財政基盤強化に尽力

2024年6月29日、学校法人北翔大学理事長小柴寛芳氏が、病氣療養中のところ逝去されました。享年74歳でした。生前のご厚誼に感謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

小柴氏は、民間企業勤務、道内の私立大学の事務局長・常務理事を経て、2015年に学校法人浅井学園(当時)監事に着任。その後、内部監査室長、専務理事を歴任され、2023年5月より本法人理事長を務められました。

生前は、私学経営や財務分野における知見を生かし、本法人の財政の基盤強化に力を尽くされました。また、豊かな

教育環境の実現に向け、学内施設の整備や改善を推進されました。穏やかなお人柄ながら、熱意を持って法人経営に臨まれ、法人および大学の発展に多大なご貢献をいただきました。

なお、同年7月2日の告別式の後、故人の棺を乗せた車は、長年通い慣れた江別市文京台までの道をたどり、本学前に到着した際、ささやかながらお見送りをさせていただきました。本学の吹奏楽団が葬送曲を演奏する中、多くの教職員や学生が生前のご功績と温かいお人柄をしのび、故人との別れを惜しみました。



ご挨拶

学生ファーストを掲げ「選ばれる」大学づくりを

学生の能力を引き出す
独自の教育力を強みに

小柴寛芳前理事長の逝去に伴い、2024年8月に学校法人北翔大学理事長を拝命いたしました。小柴前理事長のご功勞に対し、衷心より感謝申し上げますとともに、その遺志を引き継ぎ、法人経営に取り組んでまいりたいと存じます。

その一つが専門職や教職の養成力です。スポーツ、福祉、教育・保育、芸術、心理などの分野において、実践力と豊かな人間性を持つ人材を育て、社会に送り出してきた実績は本学の誇りです。そうした教育や研究の質を可視化し、教学の特色を打ち出したいと思っています。

「よりそい、育てる」という教育理念の表れでもあると考えています。

誰もが意欲的に生きる
大学の在り方を求めて



やまや・けいざぶろう／1952年、遠軽町出身。2018年2月より本学学長。2024年8月より理事長を兼任。東北大学大学院後期博士課程修了・博士(教育情報学)。中学校教諭、北海道教育委員会を経て、1997年に本学短期大学部・初等教育学科に助教授として着任。公益財団法人日本高等教育評価機構理事、日本応用教育心理学会理事、日本学校心理学会理事、日本学校心理士会会長、北海道教育相談スーパーバイザーなど役職多数。

私は毎年、新入生を対象にした「基礎教育セミナー」の講義で、「学生も教職員も意欲的であってほしい」と伝えたいです。学生が意欲的に学ぶとともに、教員も意欲的に教育や研究に取り組み、互いに高め合っていくことが大学のあるべき姿です。今後は学部・学科間のシームレスな連携推進や、学び直しを含む幅広い層への教育の提供など、誰もが意欲的に学ぶことができる環境づくりに取り組めます。また、学生の多様な興味やニーズの変化などに対応し、柔軟な学びを支援できるよう仕組みも構築したいと考えています。

本学では「Student First」を掲げ、魅力ある大学づくりを進めています。より良い教育の実現に向け、誠実に邁進することが、やがては地域からの信頼や期待に応えることにもつながっていくと考えています。

理想は、地域と密接に関わり、共同体として共にあり続ける大学です。皆さまと手を取り合いながら「選ばれる大学」を目指してまいります。

北翔60年の歩み

1963→1973



「女性にふさわしい職業的技能と、幅広い教養をもつ自立のできる社会人の育成」を建学の精神として開学。今日までの発展の基盤を築きました。

1983→1993



技術革新が進み、社会がめまぐるしく変貌した時代。幅広い職業人の育成という要請に応え、5学科7コース・専攻科へと規模が拡大しました。

2003→2013



開学から培ってきた教育資源を幅広く学ぶことのできる人間総合学科を2003年に開設。2007年には現名称の北翔大学となりました。

1963

1973

1983

1993

2003

2013

2023

2025

1973→1983



開学から積み重ねた質の高い指導が実を結び、入学者が定員を大きく上回るように。各種教室や図書館など、施設・設備も拡充されました。

1993→2003

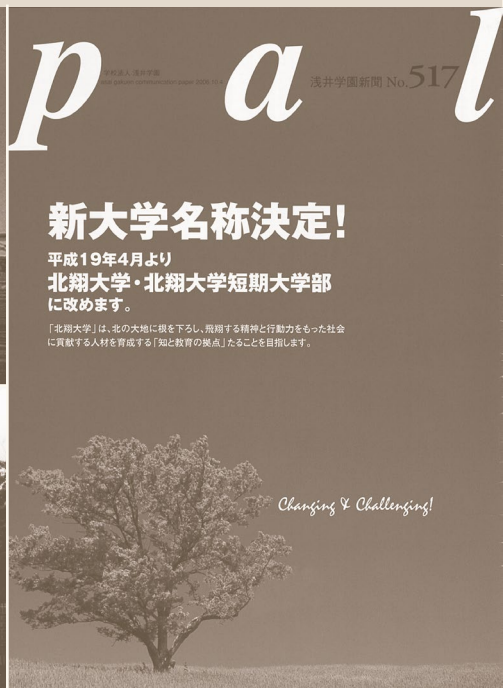


1997年、短大単独の教育体制に終止符を打ち、新たに4年制大学を開学。本学の教育・研究領域の基盤が確立されました。

2013→2025



開学時に植樹された木々は約半世紀を経て大きく成長し、緑豊かなキャンパスに。教育資源も大きく育われてきました。



北翔大学創立60周年 ホームカミングデー



当日は、創立60周年を祝うのにふさわしいプログラムが用意されました。その目玉となったのが、日本を代表する音楽師の東儀秀樹氏による「トーク&ライブ」でした。「雅楽のイリュージョン」と題したライブでは、北翔大学ウィンドオーケストラとのコラボレーションが実現。日本伝統の雅楽と吹奏楽との美しい調和に、地域の方を含む689名の観客が酔いしれました。

集合写真を撮影した後は、カレッジホールPAL6階に会場を移し、祝賀会を開催。179名が参加し、旧友や恩師らと昔話に花を咲かせました。抽選会も行われ、会は大盛況でした。



MESSAGE

60周年を祝し、
皆さんの心に残る
記念行事を実現

北翔大学同窓会
淑萃会 会長

伊藤 みどり



本会では、これから18歳人口の減少によって厳しい時代を迎えるにあたり、母校を支えるためにも同窓生全員でエールを送る証として1年前から記念行事の企画準備を進めてきました。同時に2020年の卒業式が突然中止になった折に誓った「コロナ禍が落ち着いたら卒業式やるからね」の約束を果たし、しっかり終止符を打つことができました。参加者は30名ではありませんでしたが、その分一人一人が壇上に登り、

山谷学長から卒業証書の代わりに紅白饅頭を受け取ることができました。また、送辞・答辞の挨拶では型通りではない本音のやり取りが交わされ、実に自由で楽しい雰囲気包まれた卒業式になりました。

同時に開催された東儀秀樹コンサートには500名を超える地域の方々のご参加もいただき大盛況でした。本学の音楽コースで編成されているウィンドオーケストラとのコラボは圧巻で、東儀さんも絶賛。本学音楽教育のレベルの高さを証明することができました。ささやかな地域貢献ではあります。これからも北翔大学をよろしくお願ひします」というメッセージが届いていると幸いです。

60周年記念行事を終えた現在、関わってくれた全ての人々に感謝です！創立者である故浅井淑子先生の想いの一部を継承することができたのかなと思っています。

これからも淑萃会は他校の同窓会とは異なり、常に学生に寄り添う頼りになる先輩でいたいと改めて強く心に刻み、活動していきます。

2020年の卒業生に誓った
「いつか必ず卒業式を」という約束。
北翔大学同窓会「淑萃会」主催のもと
創立60周年記念行事として実現しました。

式典には教職員や在学生、同窓生など250名を超える人が参列し、卒業生たちにエールと拍手を送りました。4年半を経て、改めて区切りを迎えることができた卒業生からは「出席して本当によかった」「思い出に残る一日になった」という感想が聞かれました。本学と同窓生の強い絆によって実現できた、心温まる卒業イベントでした。



コロナ禍で開催できなかった

2020年卒業式を 実施しました!!



できなかった卒業式を
60周年記念行事の柱に

1963年に「北海道女子短期大学」として産声を上げた本学は、2023年に創立60周年を迎えました。そのことを記念して、本学の同窓会組織「淑萃会」主催による「創立60周年ホームカミングデー&2020年卒業式」が、2024年9月14日に北翔大学アリーナにおいて開催されました。

ホームカミングデーは、卒業生や修了生が母校に集い、恩師や旧友、後輩などと交流を深めるイベントです。淑萃会ではこれに合わせて、新型コロナウイルス感染症の流行によって中止を余儀なくされた、2020年の卒業式の同時開催を企画。卒業式ができなかった後輩たちのために、できる限りリアルな卒業式に近づけようと、大学の協力も得ながら、1年以上をかけて準備が進められました。

教職員や在学生
多くの人に祝福され

当日は袴のレンタル・着付けサービスや無料の託児サービスなど、社会人となった卒業生が気軽に参加できるように配慮されていました。天気にも恵まれ、会場前に掲げられた大きな「卒業証書・学位記」の前で、袴姿の卒業生たちが記念写真を撮ったり、久しぶりに会う友人たちと近況報告をしりする姿が見られました。

実際の卒業式に倣って行われた式典では、山谷敬三郎学長より、出席した30名の卒業生に対して記念品が手渡されました。山谷学長からは、社会人として成長した卒業生たちの活躍を願う式辞が送られたほか、ユーモアあふれる祝辞や答辞のやり取りもあり、会場は笑い声と笑顔に包まれていました。



日崎さんの卒業制作「農村地域における既存住宅の増改築計画」

本学では、就職活動を支える専門部署として「キャリア支援センター」を設置し、入学時から継続的なサポートを提供しています。同センターを積極的に活用し、志望する企業から就職内定を得た日崎裕斗さんと、そのサポートを担当した松宮美晴さんに、就職活動を振り返ってもらいました。

インターンシップを糧に

松宮 日崎さんが最初に当センターにきたのは、3年生の5月頃でしたね。

日崎 はい。夏休みに参加するインターンシップ先の企業を相談しようと思ったのがきっかけです。住宅や建築に興味があり、そういう分野の企業で就業体験がしたいと思っていました。また、夏休み中なので実家から通いたい、ということも松宮さんに伝えました。

松宮 当センターにある受け入れ先企業の情報を元に、いろいろな話をしながら、希望に合う企業を探しましたね。

日崎 最初は不安もありましたが、松宮さんのサポートのおかげで安心して参加できました。実際の職場を経験したことで仕事のイメージが具体的にになり、就職活動への意識も高まりました。

松宮 インターンシップは就職活動をする上で、とても貴重ですよ。

日崎 はい。また、その時の学びや感想などを発表する「インターンシップ報告会」での経験も、就職活動や仕事に生かせると感じました。

松宮 当センターの職員の間でも「日崎さんのプレゼンはすごい！」と大好評でした。

日崎 ありがとうございます！ 松宮さんにそう言ってもらえたことが、大きな自信になりました。

何でも相談できる存在

日崎 松宮さんには、エントリーシートの書き方を教えていただいたり、採用担当の方へのメール内容の添削をお願いしたり、頼りきりでした。

松宮 目上の人に対する文章の書き方をアドバイスしたりね。

日崎 面接試験を想定して、質疑内容と一緒に考えていただいたのも助かりました。疑問や不安なことを、すぐに相談できたので心強かったです。

松宮 私たちも、学生さんの問いかけには、なるべく早く答えたいと思っていて、学内のチャットツールを使えば、いつでもやり取りができますしね。

日崎 松宮さんと面談を通して、社会人に必要な言葉づかいやマナーも学びました。また、僕の性格を踏まえたアドバイスも心に残りました。

松宮 日崎さんの長所は誠実なところなので、面接ではそのままのキャラクターを生かして、と伝えましたね。

日崎 自分の長所を認めていただけたので、自信を持って就職活動に臨めました。志望の企業から内定をいただいた



松宮職員

ときはうれしくて、すぐ松宮さんにも報告しました。

松宮 日崎さんなら大丈夫、と思ってはいましたが、ホッとしました。やはり内定のお知らせはうれしいものです。

迷っている人こそ利用を

日崎 僕はキャリア支援センターをよく利用していました。松宮さんが不在でも、職員の皆さんが温かく迎えてくれたので、とても来やすかったです。

松宮 職員間で常に情報共有をして、担当以外でも対応できるようにしていますからね。学生さんの中には、将来について曖昧なままセンターに行くことをためらう人もいますが、初めての就職活動だからわからないことばかりで当たり前。もっと気軽に利用してもらいたいんです。

日崎 「何も決めていないので行きにくい」と言う友人もいました。

松宮 雑談でもいいので、まずは来てほしい。そこから一緒に将来のことを考えていければいいな、と思います。

日崎 僕もキャリア支援センターの利用をお勧めします。就職活動の一歩だと思っ、ぜひ足を運んでください！



日崎さん

教職センター

教職に強い北翔、その理由を解説します！

本学の高い教員養成力を支える「教職センター」の役割と取り組みを紹介します。



実践的・複合的な支援体制

本学は、北海道女子短期大学の時代から数えて50年以上にわたり、教員の養成に携わってきました。教員養成体制のさらなる強化を目的に、2009年に設立された「教職センター」では、教職課程に関わるあらゆることを全面的にサポート。各学科の教職担当教員と事務職員が密接に連携し、学生の夢をかなえるために、きめ細かなフォローを行っています。

本学の教員養成実績の高さから、毎年、教員を目指して多くの学生が入学します。教職センターでは、教職課程への理解を深め、スムーズな履修に結び付けるため、1年次の4月に「教職課程ガイダンス」を実施しています。大切な経験の機会となる教育実習については、実習の前年度からオリエンテーションなどを繰り返し行い、目的や心構えを指導。早期から教育実習に対する意識を高め、より積極的な実習に取り組むことができるようにしています。教育現場を実際に経験することで「教員になる」という目標が明確になり、モチベーションの維持や向上にもつながっています。また、長年にわたる教員養成によって、幼稚園から小学校や中学校、高等学校、特別支援学校に至るまで、実習を受け入れていただくさまざまな施設と良好な連携体制を築けていることも、本学の大きな強みです。教員採用検査に対しては、独自の対策講座と、外部（東京アカデミー）に

よる対策講座を開設。各地の教育委員会を招いての説明会、一般・教職教養対策や専門試験対策、模擬試験など、段階に応じた的確なサポートを行っています。2次対策にも力を入れ、各学科の担当教員が分野ごとにポイントを絞り、実践的な面接練習などを行うことで、対応力を高めます。

このほかにも、教員採用検査関連の資料や参考図書などをそろえた教職課程資料閲覧室を、教職センターに併設。学生の教職に関する疑問や悩みの相談には、職員がスピーディに対応し、不安の解消を図っています。

未来に資する教員養成を

こうした取り組みによって、本学の教員採用検査の登録者（合格者）は、非常に高い結果を維持しています。近年

は、教員採用検査の内容や実施時期などが大きく変化する傾向にあります

が、教職センターでは事前の情報収集や学科との連携を強化し、柔軟に対応できる体制づくりを進めています。

本学の教員養成の魅力は、長年積み重ねてきたノウハウと、教育現場で活躍する卒業生のネットワークです。今後はこうした特色をさらに生かし、対策講座の充実や卒業生と学生が共に学ぶ研修会の活性化などを図る予定です。

教育現場からは「北翔大学を卒業した先生はとても誠実で熱心」という評価をいただいています。子どもたちの成長を支え、地域の未来に貢献する教員を育てることも本学の重要な役割です。良き伝統を引き継いでいくとともに、教職員が一体となり、サポート体制の一層の充実に取り組んでいきます。

VOICE

学生の声

学内の充実したサポートが夢をかなえてくれた

生涯スポーツ学部
スポーツ教育学科 4年次

村上 乃愛さん



中学生の頃から教員を目指してきた私にとって、北翔大学は夢をかなえるのに理想的な環境でした。教職センターの職員皆さんはいつも優しく、困ったことがあった時もわかりやすく教えていただけたので、安心して相談できました。教員採用検査の過去問題なども充実していて、日頃の勉強に役立ちました。また、学内で教員採用検査対策講座を受講でき、自分の理解度を確認しながら体系的に勉強を進められたのも大きなメリットでした。

教職課程の勉強は大変なこともあります。先生や職員の皆さんが親身になってサポートしてくれます。ぜひ、夢の実現に向けて頑張ってください。

今年もたくさんの「せんせい」が生まれます！

2025年度採用の公立学校教員採用候補者選考検査において、本学から154名（現役97名、既卒57名）が第2次検査に合格し、教員登録されました。過去8年間にわたり、受験者全体の合格率を本学の合格率が上回る結果となり、改めて本学の教員養成力の高さが証明されました。

教員不足が社会課題となる中、本学では教員志望者が安定的に増えており、特に保健体育教諭を目指す学生の増加が顕著となっています。本学では教職センターを中心に、社会構造や学生ニーズの変化などに対応し、学生一人ひとりに合わせた個別サポートで目標の達成を支えています。また、道外自治体での受験希望者や既卒生へのフォローなども手厚く実施しています。本学では今後も学生に寄り添い、地域で活躍できる教員養成に邁進してまいります。

合格おめでとうございます！

2025年度
教員採用候補者選考検査 登録者数

154名

2024年11月21日現在

Department of Art and Design



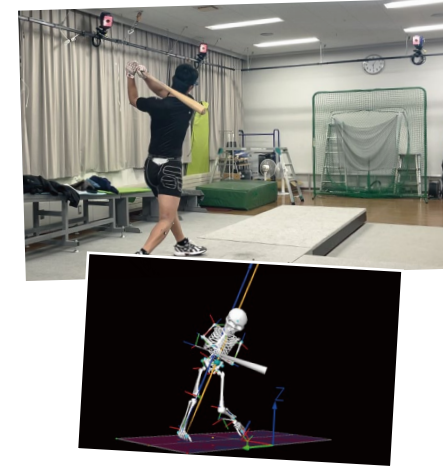
教育文化学部 芸術学科

北海道お土産グッズの デザインと商品化に チャレンジしました

芸術学科グラフィックデザインゼミでは、株式会社バル・コーポレーション（江別市）との産学連携事業として、北海道お土産グッズの商品企画とデザインを担当しました。北海道の自然や名物をモチーフにしたオリジナルキャラクターの作成をはじめ、イラストを使ったトートバッグやポーチ、マスキングテープやクリアファイルなどの文房具を学生チームが考案・デザイン化しました。企画から商品化までの流れを実践的に学ぶ、たいへん貴重な機会となりました。

販売は文教堂にご協力をいただき、新千歳空港店と新札幌DUO店にてお買い求めいただけます。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

Department of Sport Education



生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科

スポーツ バイオメカニクスで パフォーマンス向上!!

競技スポーツにおいては高いパフォーマンスを発揮することが重要です。そして、高いパフォーマンスを発揮するためにはスポーツ科学に関する知識を持ち、活用することが求められます。

渡部ゼミでは、バイオメカニクス（動作分析）を学習しています。モーションキャプチャで得られた力学的・運動学的データを基に、様々な動作を分析していきます。力の大きさや向きを可視化し、細分化して見ていくことで、新たな発見があります。

ゼミ生は、自分たちの経験則や過去に受けてきた指導だけではなく、実際にモーションキャプチャを用いた計測や動作分析を通じて学び、そこで得られた知見を実践の場で深めています。

Department of Psychology and Counseling



教育文化学部 心理カウンセリング学科

2年次が 「心理学基礎演習」の 共同研究発表会を開催

心理カウンセリング学科では2年次の必修科目「心理学基礎演習」において、ゼミごとに共同研究に取り組んでいます。その成果を2024年12月10日と17日に発表しました。

これは3・4年次で取り組むことになる卒業研究の準備段階ともいえるもので、すべてのゼミで行います。課題設定に始まり、アンケート調査では講義等で協力をいただきながら100名以上のサンプルを集め、さらにそれらのデータを分析し、考察を行うまで、トータルで研究のプロセスを体験しました。また、研究発表会は1年次も見学し、自分たちが次にすべきことのイメージを持つことができました。

Department of Health and Welfare Science



生涯スポーツ学部 健康福祉学科

奈井江町 「ふれあいフェスティバル」に 参加しました!

2024年11月30日に奈井江町において開催された「ふれあいフェスティバル」に、1・4年次の有志学生12名が参加しました。新型コロナウイルスなどの影響で、6年ぶりの開催になりましたが、ゲームや縁日のお手伝いを通して地域の方々と交流することができました。

ポッチャでは、子ども・高齢者・視覚障がい者・車いすの方など、障がいの有無に関係なく誰もが同じゲームに参加して楽しむ様子を目の当たりにし、大学での学びを実践的に深めることができました。1年次が上級生の動きを見て学んだり、ボランティア実践を通して学びにつなげる機会でもあり、これからの大切にしてほしい学びのかたちです。

Department of Childhood Studies



短期大学部 こども学科

こども学科主催の 「こどもの国」を通し 深い学びと触れ合いを

2024年9月21日に、本学の大学祭で恒例行事の「こどもの国」を開催しました。こども学科の1年次が近隣の子どもたちや保護者の方をお迎えし、お店屋さんごっこや輪投げ、パズル、魚つりなど、年齢に合わせた手作りの遊びを提供しました。音楽室では親子で楽しめる「ミニ・コンサート」も行ない、オペレッタには大きな拍手をいただきました。さらに今年は2年次も駆けつけ、人気のダンスを披露して会場を盛り上げました。

約400名ものお客様を迎えた3時間は、子どもたちの元気な声と笑顔にあふれ、学生にとって実践的で充実した行事となりました。この経験を通し、さらに深い学びを続けていきます。

Department of Education



教育文化学部 教育学科

卒業後を見据えた 実践的・体験的な活動で 多様な指導力を育みます

教育学科では、今年も教育に関する実践的な学びを数多く行いました。その中で、2024年から新たに始まった活動が、初等教育コースの「学校体験ツアー」です。北海道教育委員会の研究指定校である小学校を訪れ、教育実習とは異なる視点で「先生」を体験し、学校公開研究会の討論にも参加しました。また、音楽コースは江別市近郊にある中学校と高等学校の吹奏楽部と共に、50名を超える大編成の演奏会を企画・運営し、音楽教育に大きく貢献しました。

このように教育学科では、机上の学びだけではなく、実践的・体験的な学びにつながる取り組みをこれからも推進していきます。



Report

スポーツ教育学科の石原美海さんが快挙！ デフバレーボール世界選手権で金メダルを獲得



2024年6月21日から30日にかけて開催された「デフバレーボール世界選手権2024沖縄豊見城大会」に、石原美海さん（スポーツ教育学科4年次・女子バレーボール部）が日本代表チームの一員として出場し、金メダルを獲得しました。デフバレーボールとは聴覚に障がいのある人によるバレーボールのことで、競技形式やルールなどは通常のバレーボールと同様に行われます。石原さんは「夏季デフリンピック競技大会ブラジル2021」に続いて日本代表に選出され、見事に快挙を成し遂げました。

守備の要であるリベロを務める石原さん。「2025年に東京で開催されるデフリンピックに出場し、金メダルを取るのが目標。デフバレーのリベロといえば石原、と言われるくらい活躍したいです」と、次の目標に向けて意欲を語っています。



詳しくはこちら →

教室リニューアル

教室や施設を美しく！快適に！

本学では「学生の学修環境の整備・美化」について、施設課と学習支援オフィスの職員が中心となって検討を進め、2024年3月から7号棟の4教室の机と椅子をリニューアルしたことを皮切りに、学内施設・設備のリニューアルを順次行っています。

学修環境を明るく、快適に

2024年度も学生の夏季休業中に教室等のリニューアルを実施しました。8月には3号棟4教室の全面的なリニューアルを行いました。机と椅子を、白を基調としたものに変更したことで、教室のイメージがとてもしなやかになり、学生からは「これまでの椅子よりも座り心地が良くなった」という声も聞かれました。

同じく8月には、近年の猛暑対策として、6つの教室に冷房設備を新設。学生が快適に学習に集中できる環境を整備しました。

教室以外では、6号棟の1階から4階にある女子トイレを全面改修。新たにパウダーカウンターを設けるなど、明るく清潔な空間へと生まれ変わりました。学生からは「きれいで使いやすい」と好評で、授業の合間に化粧直しをしたり、身だしなみを整えたりする学生で賑わっています。

リニューアル工事は、授業のない長期休業の間に行います。学内のイベントなどに支障が出ないように調整しつつ、休みが終わるまでに工事を完了できるように、担当職員はスケジュール管理にも気を配っています。

今後も、学生や教職員の声を参考にしながら、より快適な学修環境づくりに努めていきます。



地域連携センター

学びの場を提供し、地域への貢献を

本学は「地域貢献大学」を掲げ、地域連携センターを中心に、社会のニーズに応える取り組みを推進しています。2024年度に注目を集めた活動と2025年度の予定を紹介します。

文京台小学校の児童が来訪

2024年11月20日に、江別市文京台小学校の2年生48名が、本学の見学に訪れました。同小学校と本学は、2019年10月に連携協定を結び、交流活動を進めています。今回の見学は、生活科の「えがおのひみつたんけんたい」の学習の一環として、大学で働く人たちの仕事を知りたい、という要望に応えて実施しました。



市民向け講座
← 詳しくはこちら



たきつけは「やりがいを感じる時は」といった質問を積極的に投げかけ、熱心に答えをメモ用紙に書き込んでいました。また、図書館や保健センターなど、小学校との施設の違いについても、興味津々の様子でした。すれ違った学生とコミュニケーションを図る場面もあり、本学について理解や関心を深めてもらう機会となりました。

学びを広げる市民向け講座

2024年度の「市民向け講座」は、くらし、趣味、健康・福祉、子どもの4分野、全17講座を開講しました。特に人気を集めたのは、フィンランド発祥のスポーツ「モルック」の成り立ちやルールなどを学び、実際に体験する「モルックで楽しく健康づくり」でした。8月に函館市で世界大会が開かれ、注目が高まったことから、2回で約50名が受講しました。他にも趣味に関する講座への関心が高く、レザークラフトや台湾茶などが好評でした。

また、毎年、社会課題などをテーマにした講座も開講しています。2024年度は「貧困とは？」と題し、身近になりつつある貧困問題を取り上げました。2025年度は「終戦80周年」をテーマに、沖縄戦や平和などについて考える講座を開講する予定です。

さらに、地域のニーズを捉え、講座の一層の充実を図るため、スポーツを科学的に学ぶ講座や心の健康に関する講座なども開講し、地域社会への貢献を目指します。

Report



春の食生活改善運動 100円朝食を実施しました

江別市の4大学共催による100円朝食を、2024年5月29日から31日まで行いました。この取り組みは、ワンコインで朝食を提供することで学生の食生活を改善すること、物価上昇に対する経済支援を目的としたものです。ほかにも、秋の100円朝食や淑華会主催の「100円朝食パイセンめし」などによって、学生生活を応援しています。



詳しくはこちら →

Report



札幌円山キャンパスで 「感性くすぐる」カルチャーナイト

2024年7月19日に「カルチャーナイト2024」が札幌市で開催され、札幌円山キャンパスでは、学生たちが多様なプログラムを提供。学生と高校生によるミニファッションショー、コンテンポラリーダンスの上演とワークショップ、モルックなどの新しいスポーツの体験、プロジェクションマッピングなどを行い、円山の夜を盛り上げました。



詳しくはこちら →

Report



2024年度保護者懇談会を 開催しました

本学では学生の修学状況などをご理解いただくため、保護者懇談会を開催しています。2024年度は9月1日に本学において、9月7日には旭川、北見、釧路、函館において開催。参加された方からは「子どもの様子がわかり安心した」「説明が丁寧だった」という声をいただきました。貴重なご意見をもとに、教育活動の向上に努めていきます。



詳しくはこちら →